

ふれあい・コンタクト

円山動物園ボランティア会
代表世話役 上田 得一

動物と出会い、人と触れ合っ心ときめきをコーディネートするために

ニュースレター

<今年も盛況『ボランティアの日』>

9月15日好天続きの3連休最終日、続々とお客様が来園される中で恒例の『ボランティアの日』が行われました。クイズで6個のスタンプを集め動物シールが当たるスタンプラリーは台紙が昼過ぎには配布完了となりました。その他に、こども動物班はヒツジの毛のしおり、サル山班はエサ探しゲームと塗り絵、熱帯動物班は消しゴムスタンプ、類人猿班はフェイスペイントと塗り絵、爬虫類班はヘビグッズと外来種クイズ、クマ班はクイズ大会とクマさん劇場など各班が工夫した取り組みでお客様と楽しく過ごしました。スタンプ集めに子供達が園内を走り回りいつもと違う活気がみなぎっていました。十周年記念植樹前での記念撮影、活動を十年継続されたボランティア13人の表彰、園長も交えての懇親会、と盛りだくさんな一日も無事お開きとなりました。皆様お疲れ様でした。（こども動物班 Y）



（この日、爬虫類班の活動は）スタンプラリーの他に、在来種と外来種、絶滅危惧種等、子供達に覚えて欲しいことを展示物で説明しました。「昆虫や爬虫類が生存できる環境でなければ人間も生存できない」ことをどの様に説明すれば理解してもらえるのか、何人に理解してもらえたか等、考えさせられる一日になりました。子供達には「命の尊さ、大切さを知り動物達との共存を考えていって欲しい」とつくづく思いました。（は虫類班 T）

（この日、爬虫類班の活動は）スタンプラリーの他に、在来種と外来種、絶滅危惧種等、子供達に覚えて欲しいことを展示物で説明しました。「昆虫や爬虫類が生存できる環境でなければ人間も生存できない」ことをどの様に説明すれば理解してもらえるのか、何人に理解してもらえたか等、考えさせられる一日になりました。子供達には「命の尊さ、大切さを知り動物達との共存を考えていって欲しい」とつくづく思いました。（は虫類班 T）

<アニマルファミリー『弟路郎感謝イベント』>



7月13日、動物科学館で行われた『弟路郎感謝イベント』に参加しました。ファミリーを前に金沢園長の挨拶や、吉田飼育員からオランウータン弟路郎のあわや脱走の件を含む、日頃の様子について報告がありました。フリートーキングの後、私達は普段なかなか見る事が出来ない弟路郎の住み家の楽屋裏へと招待されました。弟路郎は檻に背中をくっつけて説明する吉田さんの体に指で触れ、その匂いをかいでいました。吉田さんをつぶらな目で一心に見つめ、吉田さんが体をずらすと自分もずらし、また体に触れ匂いをかぐ動作を繰り返していました。吉田さんも目が覚めると一番先に考えることは弟路郎の事だそうで、これって相思相愛？・・・弟ちゃん早くお嫁さん来るといいネー・・・。（熱帯動物班 M）

7月13日、動物科学館で行われた『弟路郎感謝イベント』に参加しました。ファミリーを前に金沢園長の挨拶や、吉田飼育員からオランウータン弟路郎のあわや脱走の件を含む、日頃の様子について報告がありました。フリートーキングの後、私達は普段なかなか見る事が出来ない弟路郎の住み家の楽屋裏へと招待されました。弟路郎は檻に背中をくっつけて説明する吉田さんの体に指で触れ、その匂いをかいでいました。吉田さんをつぶらな目で一心に見つめ、吉田さんが体をずらすと自分もずらし、また体に触れ匂いをかぐ動作を繰り返していました。吉田さんも目が覚めると一番先に考えることは弟路郎の事だそうで、これって相思相愛？・・・弟ちゃん早くお嫁さん来るといいネー・・・。（熱帯動物班 M）

<『夜の動物園』みんなのドキドキ体験>

7/26～8/23の毎週土曜日と8/15、夜9時まで時間延長を行い、昼間とは違った夜の動物の顔を見る事が出来ました。『アザラシのお食事』は土佐飼育員の指導で、積極的に何度も魚を与える子、恐る恐るの子、最初は嫌がる子等様々で夫々エサやりを楽しんでいました。『ビーバーガイド』では専門学校生の、「ビーバーが巣を作る事で森が再生する」と言うガイド内容に興味をそそられました。『ビルマニシキヘビをさわっちゃおう』では本田飼育員が3mのビルマニシキヘビを体に巻きつけ登場し、コワゴワ触った人の顔が、後には本当に嬉しそうになるのが印象的でした。沢山のお客様が夕方からのイベントを楽しみ、園内ですれ違う度「来て良かったネー」との楽しそうな声が耳に入り、私も嬉しくなりました。夜の顔も見せてくれた動物達も「お疲れ様でした！」（熱帯動物班 M）



沢山の客様が夕方からのイベントを楽しみ、園内ですれ違う度「来て良かったネー」との楽しそうな声が耳に入り、私も嬉しくなりました。夜の顔も見せてくれた動物達も「お疲れ様でした！」（熱帯動物班 M）



<ミニホースの赤ちゃんの名前が決まりました>

9月6日、ミニホースの赤ちゃんの命名式が行われました。一般公募で決定した名前は『ナミ』。7月3日生まれなのでナミちゃんと考えてくれた命名者のまどかちゃん（小学2年）には動物園から馬のぬいぐるみがプレゼントされました。ナミは母シズマとそっくりの毛色ですくすく育っています。小さい体で元気に走り回る姿には力強さがみなぎっています。これからも成長を見守っていききたいですね。

2005年春、こども動物園に仲間入りした3頭のミニホースのサトシ・ミヨコ・シズマも今は立派なお父さん・お母さんになりました。昨年10月22日生まれのカエデと今回名前が決まったナミを加え合計5頭となり、いっそう賑やかになったファミリーはこども動物園内の屋外放飼場でお待ちしています。元気な子供達や親子間の微笑ましい姿をゆっくりご覧ください。（こども動物班 N）

<ホッキョクグマのツヨシ・ピリカを巡る旅>

ここ数年、毎年春と秋にツヨシとピリカに会いに出かけています。

最初は帯広のピリカに。まだ別れて間もないので可愛いピリカのまま。柵をよじ登りこちらを見ている姿が印象的でした。

そして釧路へ。驚いたのが目の前でキーパーさんからパンと生卵を貰って食べているツヨシの姿です。時折甘えた泣き声でおやつを催促。生卵を飲んだ後の殻はちゃんと戻します。お腹が一杯になるとお昼寝。まるでぬいぐるみの様でした。柵の隣には大きなプールがあるが、ツヨシが釧路に来た当時は泳ぐ事が出来るか心配だったそうです。6月からツヨシとクルミ（お嫁さん）の同居も始まり、さらに『ツヨシを守る会』も発足、活動を始めているそうです。又、広いホッキョクグマ舎には全国でも珍しい砂場があり、黒クマ(?)になったツヨシも見ることが出来ました。



(サル山班 T)

<は虫類館バックヤードに棲む動物たち>

は虫類館バックヤードは、は虫類班担当ボランティアといえどもなかなか見られません。

今回、キーパーの本田さんをお願いしウォッチングしてきました。現在バックヤードではカメ・ヘビ・トカゲ類等 20 種約 100 匹のは虫類が飼育されています。バックヤードにいる理由で最も多いのは密輸が税関で摘発され動物園で保護されているケースです。また青大将・シマヘビ・ジムグリなどを繁殖させるために飼育しているケース。更にカンボジアモエギハコガメのように神経質で展示に適さない動物もいます。他に赤ちゃんヨウスコウワニを展示するためにアルマジロト



カゲを移さなければならぬ展示スペースの狭さもあります。

草食性動物が多く飼育には手間ひまがかかりスペースもとります。そのため必要な条件でのピンポイントでの世話になります。バックヤードは陽の当たらない場所というイメージかもしれませんが、キーパー本田さんのきめ細かいお世話で元気に育っていますよ。

(は虫類班 K)

<アニマルファミリー『レディイベント』>

9月7日、胸をワクワクさせ動物科学館ホールに集まったレディファミリーの皆さんに金沢園長から感謝の言葉があり、祐川飼育員からはチンパンジーレディのとおき情報を頂きました。

転落死した母の代わりに祐川さんが、自分の子育てを思い出しながら育てたレディは今、オテンバで元気いっぱいです。日頃の様子は「カミツキのケンカも出来る：様子をうかがうのではなくオープンに遊ぶようになった：スージーに、おしりを見せたり、チューをしたり積極的に挨拶に行く：トニーにも自分から毛を逆立ててアピールする：ガチャ・ジェーンに手を引かれて屋内に戻ることもあり、信頼関係も深まってきた：麻袋、座布団に関心があり、宝物のように肌身離さず持っている」等々、ファミリーにとっては、目じりの下がるお話でした。

そして、現在まで、心血を注いでレディを育てて来たとの思いも伝わり、胸が熱くなりました。「まだまだこれからで、今後も宜しくお願いします」との祐川さんの言葉を背に、暖かい気持ちに満たされチンパンジー館を後にしました。

(熱帯動物班 M)



<『新鮮な海の幸』プレゼント！>

『海の日』『発泡スチロールの日』の7月20日、エコイベントの一環としてホッキョクグマのララに新鮮な魚（ホッケ）が、発泡スチロール再資源化協会からプレゼントされ、ララは大喜びで「ガブリ！」と大満足でした。ところで、発泡スチロール（EPS）とホッキョクグマは意外な共通点があり、それは①発泡スチロールの断面とホッキョクグマの毛の構造が共に空洞になっていて、空気の保温性・断熱効果がある②色が白い等です。納得出来ました？！

ホッキョクグマは今後 20 ~ 30 年間で絶滅してしまうと言う説があります。理由は温暖化の影響で①生息域の海水が減少し餌が捕れない②母親の栄養不足で子育てに影響③巣穴が作れなくなる④気温が上がると暑くてバテる⑤環境汚染の増加等々です。こんなことになると大変ですね。さて、当園のララは12月頃に赤ちゃん誕生が期待されています。ララ頼んだよ！・・・。来年以降もプレゼントよろしくお祈りします。

(世界のクマ班 K)

＝類人猿班のスターたち＝

<チンパンジー>ハルをよろしく、わたしはガチャ。チンパンジー館の長老じゃ。人間に換算すると80歳以上のおばあさんだけど、まだまだ元気な方さ。なんたって、この歳で赤ちゃんを出産したんだからねえ。3月に生まれた女の子で、名前は『ハル』。小学生の女の子がつけてくれたんじゃないよ。ハルが産まれてから、チンパンジー館では、いくつかの変化があったよ。一つ目は、去年幼いケンとサムが死んで寂しくなっていたチンパンジー館が、ハルのおかげで明るくなった事。二人の分まで生きてほしいねえ。二つ目は、わたしの息子、チャーボーの事。今までは甘えん坊で、いつもわたしにベッタリだったのが、今ではすっかりお兄ちゃんらしくなって、ハルだけでなく、小さいテスやレディの面倒も見ようになったんじゃないよ。今年でもう7歳。人間でいえば、中学生くらいかのう。今後は、もっともっとお兄ちゃんらしさを発揮して欲しいねえ。ハル、元気で優しい子に育てておくれ。そして、いつか大きくなった時、お姉さんのテスやレディと一緒に仲良く遊ぶ姿を見るのが、わたしの一番の夢なんじゃないよ。その日まで、長生きしたいねえ。みなさんも、円山動物園に来たら、ぜひ、ハルに会いにチンパンジー館へ来て下さいね。トニー、チャーボー、チャコ、ジェーン、テス、スージー、レディ、そしてわたしとハル。皆で待ってるよ。



(類人猿班 N)

<オランウータン>マレー語で「森(hutan)の人(orang)」を意味します。東南アジアのスマトラ島とボルネオ島の熱帯雨林にのみ生息し、大人のオス以外は基本的に地面におりることはなく、ほぼ完全な樹上生活をしています。ゴリラやチンパンジーとは異なり拳で地面を突くナックルウォークをせず、地面を歩く時は指を曲げ手のひらで歩きます。類人猿の中では最も単独性が強く、グルーミングや遊びなどの社会交渉を行う頻度は、活動時間の1%以下。しかし完全な単独性ではなく、3～7頭が同時に同じ木で採食したり、連れ立って移動する事もあり、緩やかなつながりを持つ社会を形成していると考えられています。



円山の森の人『弟路郎』は、平成9年(1997年)1月26日釧路動物園生まれのボルネオオランウータンです。平成12年(2000年)9月に3才で円山に来ました。来園当初は誰にも懐かず大変苦労したそうです。いきなり引き離されたと思っていたのでしょうか。野生下では2才半から3才頃に離乳はしますが、6～9才頃まで母親と一緒に行動するとされています。今は飼育員の吉田さんの愛情のおかげで大きく、育ちましたね・・・さて、動物園生まれでなおかつ3才から単独で生活してきている『弟路郎』は野生の本能がどの程度残って(存在?して)いるのでしょうか。初めて体験する事や初めて見る食べ物などは特に片手、片足はどこかにつかまって、すぐに逃げられる様にしてから近づいたり、食べたりします。確かに臆病、あるいは慎重な性格の様にも見えますが、野生の樹上生活を垣間見せてくれる瞬間です。

樹上生活といえば、現在の類人猿館の屋外放飼場は、下草がびっしりと生え、木も低木は葉が生い茂り、少しジャングルっぽく見えませんか? 最初は出ることを嫌がっていた『弟路郎』もさまざまなトラブル(新聞沙汰になってしまいましたが)を乗り越え、今は楽しんでるように思えます。ロープ渡りや高いところから眺めていたりして、以前の様に後方でタイヤの陰に隠れてお客様から見えないようにしている事はなくなりました。エサもガラスの方に置いてくれているので、目の前で食べるところが見られます。

近くに見られるようになって、改めて感じる事は、顔や手など体の各部をそばで眺める事ができ、本当に大きくなってきた事を実感しました。段々大人になっていく様を目の当たりにして、うれしいけど、ちょっと寂しいような親の気分です。お嫁さんが来たら、多分劇的に違う事が起こると思います。(ヒントは顔です。)早く見たいものですが、実際にそうなった時は寂しさもひとしおなのでしょう(息子を嫁に取られた気分?) 室内の方も『弟路郎』が退屈しないように吉田さんがさまざまな工夫をしています。エサを探して食べたり、道具に使うものや玩具だったり、本当にいろいろな事を試しています。動物園ホームページの吉田さんのブログにアップされていますのでぜひ読んでみてください。そして類人猿館にいつまでたっても来て下さい。

(類人猿班 S)



<アメリカの動物園を回って来ました>

(その1 -シアトル Woodland Park Zoo)

真夏の太陽が照りつけるのは人も動物達にもきついが、ここは通路も木々の緑に覆われしばらくその下に居ると陽の当たる所に出て体を温めたくなる程で涼しい。ゴリラ舎は5人と6人の二つのグループに別れている。(キーパーは5人) ◎40歳のニーナというおばあさんゴリラを中心にゆったりとした時間が流れる大人達のAグループ◎立派なシルバーバックとメス達、生後8ヶ月の赤ちゃんゴリラや異母兄弟の住むBグループ。まるでジャングルの様に大小の木々、緑の葉や草花。川も流れていて、人目に触れたくない時は隠れる場所もある。子供達は好きな時に木登りで戯れる。又、大きなガラスの近くに来て、座ったり転がったりしてくつろぐ。その場所は暑い時は日陰で涼しく、寒い時は上方が暖房になっている。どの点を見ても「この動物園は良いなあ」と思わせる。(次号に続く) (類人猿班 K)

<あーア おいしかった！動物たちへの氷のプレゼント>

8月3日、小雨のニホンザル舎に朝から大きな氷柱4本が並べられていた。子猿たちは嬉しくて、かじったり滑ったり。午後1時半には果物のプレゼント、猿たちは30分前から集まり「今年も・・・」とソワソワ待っている。いよいよ氷の上にスイカ・メロン・ブドウ・バナナ・リンゴ・オレンジが盛り沢山に置かれて・・・。果物が見えないほどのサル、さる、猿。奇声、甘い香り、喚声・・・凄い！サルも人も興奮状態。オレンジの強い香り！メロン一番人気だ！ブドウも好きみたい。取り合いだ！フルーツジャングルの世界。充たされた共有の時間。最後に残された半切スイカの争奪戦。手に入れたのは『中松』。スイカに顔を埋めるようにして食べ、次には段から下に落とし割って最後まで食べた。ヤッター『中松』。体力・知力凄い。リーダー決まった？かな。子供たちに「リーダーはあの『中松』です」と早く教えたい。『中松』に期待しているボランティアおばさんです。



(サル山班 T)



<動物たちの冥福を祈る>

9月19日、円山動物園では昨年の9月から今年8月までの一年間に亡くなった動物たちの慰霊祭が行われました。ナマケグマの『マック』、ニホンザルでオスの第一位だった『次郎長ジュニア』、エランド、マレーバクの『スティーブ』など49種79体が他界しました。慰霊祭では花や果物、野菜が供えられた慰霊碑の前に、近くの幼稚園児や保護者、動物園の職員、ボランティアの皆さんが花をたむけ動物たちの冥福を祈りました。

(熱帯動物班 O)

<命のドラマ>

ボランティア活動を始めから、それまであまり意識したことがなかった『命』について考えるようになりました。そこに居るのが当然のように思っていた象の花子、ライオンのジュspa、ニホンザルの次郎長ジュニア等がこの世を去ったのを知る度、その存在感と尊さに気づかされてばかりです。その一方で新たにやって来た命を見て、やはりその尊さに喜びを感じ『動物園』という限られた空間で繰り返される命のドラマに終わりはありません。これまでの軌跡、そしてこれからも続くであろう動物たちの営みをボランティアとして出来るだけ、その感動を伝えていけたらと思います。

(サル山班 D)



=投函コーナー=



水あそび 7月末のある暑い日、ヒマラヤグマの『トモ』と『ミナミ』の2頭が専用のプールで水浴びと洒落込んで、水しぶきをあげ仲良くじゃれ合っていました。
(熱帯動物班 T)

吼えた！ シンリンオオカミ『キナコ』の遠吼えの姿、シャッターチャンスでした。久しぶりに見ましたが新しい住まいのナワバリを主張する歓喜のおたけびか、それとも？・・・
(世界のクマ班 K)

発見！ 札幌地下鉄大通り駅から東豊線乗り換え通路に、円山動物園ボランティアのKさんとTさんが撮影したホッキョクグマやキリン等のかわいい写真が展示されています。
(は虫類班 F)

すばらしい先輩達 『ボランティアの日』(9/15)にボランティア活動を10年継続された13人の皆さんに金沢園長から、感謝状が手渡され表彰されました。おめでとうございます。
(世界のクマ班 Y)

編集後記

行楽の秋、園内では今、ドキドキ体験が大変人気があり面白そうですよ。一度参加されては如何でしょうか？今回もお蔭様で多数の原稿を寄せて頂きました。全部の記事を出来る限りそのまま掲載したいと考えていますが、紙面の都合もあり嬉しい悲鳴となっています。そこで、真に申し訳ない事ですが記事の主旨を損なわない様に編集を心掛けておりますので、何卒ご理解のうえご容赦頂きます様お願いします。(次号の原稿締め切りは12/5を予定しています)